

Community Welfare Total Care Promotion Project

トータルケアNEWS

26 2007.12.20

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

【特集】
トータルケア運営委員
モデル社協視察・・・1～9

【特集】トータルケア運営委員によるモデル社協視察

秋田県社会福祉協議会では、昨年に引き続き、地域福祉トータルケア推進事業の評価や効果的推進を図ることを目的に、トータルケア運営委員によるモデル社協（湯沢市、藤里町、美郷町）視察を実施いたしました。

訪問には7名の委員が参加し、モデル社協で実践されている特長的な事業に触れ担当職員との意見交換を行いました。

今回のトータルケア NEWS では、モデル社協を訪問していただいた委員の皆さんから寄せられた感想を御紹介いたします。

藤里町社会福祉協議会 平成19年10月29日（月） 午前11時～午後2時

【藤里町社協出席者】

菊池まゆみ（事務局長）、佐々木田鶴子（福祉活動専門員）、菊地弘章（在宅福祉相談員）

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

小野洋子（県看護協会）、高橋 章（県障害福祉協議会長）

高橋 豊（県社協事務局長）

【秋田県社協】 安田大樹（地域福祉課主任）

【視察スケジュール】

11時～12時 「出張元気の源さん」見学

1時～2時 トータルケア事業推進に関する意見交換

藤里町社協モデルとしての取り組みに触れて

秋田県看護協会（秋田市河辺地域包括支援センター保健師） 小野洋子委員

思い起こす時、平成 17 年 4 月 1 日に秋田県社会福祉協議会が実施する地域福祉トータルケア運営委員の設置要綱が作成された。

私は、秋田県看護協会の代表として、トータルケア運営委員の一人としてこの事業に加わることになりました。今こそ、地域福祉トータルケア推進事業が重要課題であることは、福祉や医療関係等に関わっている担当者であれば、必要不可欠で期待するところである。

秋田県の地域福祉を取り巻く課題は、少子化の進行・高齢化の進行・障害者の重度化や人間関係の希薄化等活字に出来ないほどの難問が山積しています。

地域福祉トータルケア推進事業の目的は、高齢者や障害を持った人々だけでなく誰もが住みなれた地域で安全、安心して暮らしていけるように関係者の参画と連携が必要であり何よりも地域住民の協力が鍵となるのです。

この度、藤里町社協モデル地域の視察をする機会を得て、「元気の源さんクラブ」に参加することができました。社協職員の笑顔と若さ溢れるリーダーシップの話術には感服し、私の地域でも計画してみたいと思いました。休憩時は「こころと命を考える会」サロン「よってたもれ」の担当者のコーヒーのおもてなしがあり、参加者とジーンワリとコーヒーの温かさを感じました。コーヒーの香りが漂う情報交換はとても有意義で、参加者の本音も聞くことができました。午後からのトータルケア推進状況の確認、意見交換等では、驚きとともに地域の顔が見える「藤里町ふれあいマップ」では、行政に聞くと守秘義務とかプライバシーといわれる、社会通念とは関係のない協力者の方々の人物像が写真となり、電話や協力者のコメントが加わり、地域の暖かさを覚えました。マップができるまで関係者の苦労が見えてくるような・・・、どれだけの時間を要したのだろうか。このマップ 1 枚こそ地域福祉を支え安心して暮らせる地域の顔であることを感じたのは、私だけの思いだったでしょうか。また、17 年より 3 年間の時系列に作成された資料からは、平成 18 年度に地域包括支援センターを開設して、町から保健師の派遣もあり痒いところに手が届く「藤里町社会福祉協議会」の福祉政策が県内の教科書となるように波及効果を期待したいものです。

今回の視察は、藤里町社会福祉協議会職員のやる気とトータルケア・アドバイザーの先生、県社協の支援等が藤里町民の笑顔と住みなれた地域で安心して暮らせる、評価に結びついていることを肌で感じる事ができた 1 日でした。

トータルケアモデル社協藤里町を訪ねて

秋田県障害福祉協議会会長 高橋 章委員

昨年はモデル事業指定の湯沢市社協を訪問し、今年度は藤里町社協のモデル事業視察訪問の機会を頂いた。里の秋を目の前にしながら、介護予防のための健康生きがいがづくり「元気の源さんクラブ」事業の視察、この事業参加者は男性より女性が多く男性も「出張してくれれば参加する」とのニーズに応え、老人クラブ・地域で自殺予防に取り組む「心といのちを考える会」が主催する、サロン「よってたもれ」のボランティアの皆さんとタイアップして出張で実施されていた。

指導員は社協職員、元気でユ・モラスな口調での指導にあちこちから笑い声が聞かれ、楽しく愉快的な雰囲気終了。その後はサロンタイム、エプロン姿も板についた「よってたもれ」の皆さんが白神山地から湧き出た「自然水」で沸かしたコーヒーとお茶をいただき会場を後にした。

午後からは菊池事務局長さん、CSW佐々木さんから平成17年度モデル社協指定時、平成18年度の取り組み状況、そして、1)総合相談・生活支援システムの構築 2)福祉を支える人づくり 3)介護予防の為に健康づくり・生きがいがづくり 4)福祉による地域活性化 の重点項目に対する自己評価指標の高さも、モデル事業最終年度の平成19年度地域福祉トータルケア推進事業進捗状況の説明を受け納得の行くものである。藤里町社協は他のモデル社協との大きな違いである単独立町での事業実施で、全ての項目に於いて年々事業内容の充実が図られている点、トータルケアの最大の目的である地域住民参加型の体制が構築され、住民主導型に進化している点を高く評価すると共に、菊池事務局長さん初め藤里町社協職員の皆さんの頑張りとお苦しみに対し衷心より敬意を表したい。又、今年度でモデル事業が終了するこれからを本番と捉え、今まで構築された既存の組織の役割、機能等を整理され息の長いトータルケアを求め、他市町村のモデル社協であってほしいと願い藤里町を後にする。

最後に、県社協には3年間のモデル事業最終年度にあたりまとめと、それぞれ取り組んでいる市町村社協への支援を今後どの様にするかを明確にし、更なるトータルケア推進を望み視察の感想と致します。



出張元気の源さんの様子

藤里町社会福祉協議会の地域福祉トータルケア推進事業を視察して

秋田県社会福祉協議会事務局長 高橋 豊

藤里町社協の菊池事務局長とコミュニティソーシャルワーカーの佐々木さんの同行で、「元気の源さん」を開催している米田地区におじゃました。重点事業の一つである「介護予防のための健康づくり、生きがいづくり」の出前版である。

メニューは、体力測定、ストレッチ、レクリエーション。「こころと命を考える会」の袴田会長さんをはじめメンバー4人によるサロン“よってたもれ”の喫茶も出張してくれていた。

インストラクターの軽妙な解説付きのゲームなどをいくつかやって休憩をとり、「こころと命を考える会」のサロン“よってたもれ”がもてなしてくれたコーヒーをご馳走になりながら、茶話会。楽しく、和気藹々とした出前サロンであった。

この活動は、社協が委託されている地域包括支援センターの地域住民に向けた介護予防事業と地域福祉トータルケア推進事業のジョイントが成功している。

福祉（サロン）の拠点として生活改善センター、プログラムは社協や地域包括支援センターが担当し、老人クラブのメンバーによる声かけや送り迎えと「こころと命を考える会」のメンバーによる喫茶がこれを支えている。

地域福祉トータルケア推進事業の重点項目から整理してみると、「介護予防のための健康づくり、生きがいづくり」「福祉を支える人づくり」「福祉の拠点づくりを伴う地域活性化」がうまくかみ合っている。私たちは時間の都合で、茶話会に最後まではいなかったが、その中では参加者が抱えるいろいろな悩みや不安も出ていたのではないかと思われ、「総合相談・生活支援システムの構築」も機能していると考えている。

ところで、地域福祉トータルケア推進事業はある意味、重点項目が相乗効果的に発展する事業である。「ふれあい・いきいきサロン」の開設そのものが最終目的ではなく、そこでキャッチした利用者の生活上の不安を取り除き、不足しているフォーマル・インフォーマルな福祉サービスを充実、創生し、できる限りの個別支援を展開する必要があることから、重点項目の第一に「総合相談・生活支援システムの構築」が位置づけられている。

藤里町社協はもとより、他の社協も、システムとして次々と生まれてくる生活福祉課題をどこで受け止めるのか。どこが対策方針を作っていくのか。実戦部隊は現在の運営委員でよいのか。地域福祉トータルケア推進事業はやればやるほど課題が広がる事業とも言える。それをしっかり受け止める、もしくは束ねられる仕組みづくりを、市町村社協と一緒に進めていかなければと考える1日となった。

美郷町社会福祉協議会 平成19年11月2日(金) 午前11時～午後2時

【美郷町社協出席者】

高橋幸悦(事務局長)、大阪孝次(事務局次長)、板谷智子(事務局次長)

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

柴田 博(県社会福祉士会長)、藤原由美子(県福祉政策課長)

【オブザーバー】 熊谷仁志(県福祉政策課主査)

【秋田県社協】 門脇琢也(地域福祉課課長補佐)

【視察スケジュール】

11時～ 六郷地区空き店舗交流拠点「まめだ屋」見学

11時30分～ 後三年地区空き店舗交流拠点「よってって」見学

1時～2時 トータルケア事業推進に関する意見交換

美郷町社協のトータルケア事業を視察して

秋田県社会福祉士会長(秋田看護福祉大学教授) 柴田 博委員

トータルケア事業の3年目を迎えた美郷町に伺いました。午前中は、9月26日にオープンした六郷地区の「清水の里ふれあいいきいきサロン『まめだ屋』」と、3年目になる仙南地区の「雁の里ふれあいイキイキサロン『よってって』」を見学させていただきました。

『まめだ屋』は、商店街の一角にあり、立ち寄るには良い場所だと感じました。ソファでは、女性の方4名が語らいをし、畳の部屋では、7名の女性が裂き布で草鞋を作っていました。ロビーで先客の方と一緒に、私たちもコーヒーをいただきました。ウエイトレスは、近くにある通所授産施設サンワーク六郷の利用者の方々と、元気一杯の接待をしてくれました。また、サンワーク六郷で作っているパンや鶏卵の販売をしており、新鮮なものの購入に地域の方々が訪れておりました。

次に、伺った『よってって』は、後三年駅の近くにありました。当日は、女性5名が、お弁当持参で集まり、裂き布で草鞋や籠を作っており、月曜から金曜日まで、3グループが活用していました。男性の参加の促進、移送サービス、動くコンビ二、健康づくり等々、モデル事業の草分けですので、地域に



「まめだ屋」内で説明を聞く

溶け込んだ事業活動を感じました。

午後からは、推進状況の説明を受け、意見交換を行いました。今年度から、千畑地区の事業もスタートし、「ラベンダーの里ふれあい運営委員会」が開催され、当地区の活動を重点的に展開していくことになるそうです。仙南・六郷地区とも多くの事業が実施されており感銘を受けました。少子高齢化のなかで、地域が抱える課題を住民とともに考え、行政、老人クラブ、学校、児童会等々と連携を組み合わせながら、活動を進める社協の姿に、地域福祉の在り方を知らされる思いがいたしました。また、各サロンの備品の多くが、この事業に参加している委員の方々の口コミによって、色々な所から寄贈されたとのことで、ネットが創られていく一役を担ったようです。特に、美郷町は、国民体育大会の自転車とバドミントンの会場であったことから、国体事業と一体になったプランターへの花いっぱい事業が展開され、次年度も継続していくというお話は印象的でした。

美郷町社会福祉協議会のトータルケア事業を視察して

秋田県健康福祉部福祉政策課長 藤原由美子委員

このたび美郷町社会福祉協議会のトータルケア事業の取り組みについて現地視察をし、その取組状況についてお話しを伺うことが出来た。その感想を述べさせていただきます。

「清水の里ふれあいいいきいきサロン『まめだ屋』」に入ると、若い女性から元気なあいさつで迎えられた。彼女らはサンワーク六郷の利用者で、午前中は喫茶コーナーを担当しており、「まめだ屋」では彼女らが作っているパンや卵が販売されていた。

「まめだ屋」は六郷地区の中心部に位置し、空き店舗を活用した地域住民が気軽に集える拠点施設として設置された。当日は20名ほどが利用しており、近所の主婦たちが布わらじを製作中だった。常時ボランティアたちが喫茶コーナーでのサービスに対応しており、コーヒー等を提供しているとのことであった。この9月にオープンしたばかりであり、その熱気が感じられた。中心部にも位置していることから、待ち合わせなど、ふらっと立ち寄れる場として活用が期待される。

「雁の里ふれあいいいきいきサロン『よってって』」は、仙南地区のJR後三年駅前に位置している。旧JA後三年出張所を活用しており、広々とした畳敷きの部屋が特徴的な施設である。

「よってって」は「まめだ屋」とは異なり、ボランティア等は常駐しておらず、誰もが自由に活動出来る場として設置されている。当日も地域の主婦が6名ほど、

古布を活用した鞆づくりをしており、壁のカレンダーには囲碁将棋を始めとする沢山の利用日程が書き込まれていた。

今後も子ども会の行事などを計画しているとのこと、個人的には、小岩井農場から譲り受けたというソフトクリーム製造機で、ソフト屋さんごっこをやったら楽しいだろうと思ったりしたが、すっかり地域に定着していると感じた。

トータルケア事業では住民のやる気をどのように引き出すかでその成否が決まる。両施設とも地域住民が自らの発想で企画し、実現したものである。両施設を見学した後、美郷町社協職員のお話を伺ったが、社協職員がコーディネーターとして地域をまとめていることが強く感じられた。

意見交換の中でモデル事業終了後の展開についてお伺いしたところ、トータルケア委員の公募について話題となった。当初トータルケア事業を実施した際、公募による委員がどのような発言をするかが不安であったという。しかし3年を経過し、

公募した委員の従来のかたととらわれない発想が、事業実施にとって必要不可欠なものであり、改選に伴う公募はまったく不安がないとのことであった。



美郷町社協での意見交換

美郷町社協の取組は住民参加による地域福祉の一つの例といえるものである。少子高齢化や地域コミュニティの崩壊などの山積する地域課題を解決するための手法として、多くの地域において参考とすべき点があるものと強く感じた。

湯沢市社会福祉協議会 平成19年11月9日(金)午前10時30分～午後2時

【湯沢市社協出席者】

井上勝(事務局長) 赤平一夫(地域福祉課長補佐)

【秋田県トータルケア運営委員出席者】

鈴木 亨(秋田魁新報社論説委員) 丹すみ子(湯沢あかねの会代表)

【秋田県社協】 門脇琢也(地域福祉課課長補佐)

【視察スケジュール】

10時45分～ 坊ヶ沢ふれあい会館視察

11時30分～ 「きっさこ」視察

1時～2時 トータルケア事業推進に関する意見交換

懐かしさでいっぱいでした。秋田県社会福祉協議会トータルケア運営委員会のモデル社協視察が11月9日、湯沢市で行われました。実は仕事の関係で、平成9年から12年までの3年間、当地に住んだことがあったからです。

旅行や観光で訪れるのと、実際に何年か住んだ経験があるのとでは、かなり異なります。よく土地柄といわれるように、「柄」といいたいでしょうか、あるいは「匂い」と申すでしょうか、その土地特有の雰囲気があるように思えるのです。

感じ方はさまざまに違いありません。しかし、私にとっての湯沢は、一言で表すなら「ほんわか」であります。3年も住んでたった一言で済まそうというのか。そんなお叱りを受けそうですが、離れて7年余りが過ぎようとしている今も、モッサモッサと降る雪さえ「ほんわか」と思い出されます。

視察のメインである旧坊ヶ沢小学校跡地を訪ねた際も、同じような感慨を抱きました。何と「炭焼きがま」を作ってしまったというのですから。いや、こうなれば「ほんわか」を通り越して、ふつふつと「熱いもの」がこみ上げてきたといった方が正確かもしれません。

説明を伺ううちに、その思いが強くなっていきました。炭焼きがまを作る話はごく自然にみんなの合意となり、2カ月という短期間で完成をみたとお聞きしました。地域の皆さんがあつという間にまとまり、形にしてみせたということに、「熱いもの」を感じないわけにはいかないではありませんか。

それは、言葉を換えれば、「地域の底力」といえるかもしれません。炭焼きは山間部ならかつて普通に行われていました。坊ヶ沢地区も同じでしょう。しかし、時代の流れとともに廃れました。ただ、炭焼きの「経験や技術」は確実に生き残っていました。その有形無形の「財産」が再び花咲いたのです。

「坊ヶ沢の炭焼きがまづくり」は、福祉を含めた地域づくりに向けて、とても大事な示唆を与えてくれそうな気がします。その土地やそこに暮らす人々が秘める潜在力に着眼し、うまく光を当てれば、相当なパワーになり得るということです。

少子高齢化は大きな問題です。しかし、嘆いてばかりいても先は見えてきません。



坊ヶ沢ふれあい会館前で

もしかしたら眠っている「力」があり、「人」がいるのではないか。いるとすれば、できる限り活躍してもらおう。この視点は過疎が進めば進むほど重要になると思われます。

トータルなケアへの始まりを感じて！

湯沢あかねの会 丹 すみ子委員

この度、モデル社協である湯沢市社会福祉協議会の取り組みを視察させていただきました。地元の社協ながら、取り組んでいるトータルケアの内容に触れることが叶いませんでしたので日頃のお礼もそこそこに、気持ちを引き締めました。

最初に、ガンコウランサポート委員会による「炭窯」を見学しました。元小学校跡地に活動拠点としてふれあい会館が設置され、交流といきがづくり事業が進められている様子を視察しました。委員会の皆さんの温かい心にふれ、ありがたい気持ちで熱心な説明を聞きました。まさに、今の時代（高齢社会）を見据え多くを感じながら暮らしておられる方たちが主役となって「炭窯」の完成が見られたことに感動でした。引きこもりがちな先輩たちをサポートしながら、守ること次世代へつなげようとする意気込みと、忘れられそうな地域のつながりを取り戻す役割は大きいと思いました。

見学後、福祉センターに於いて、市社協のトータルケアへの取り組み、活動内容など詳しく説明を頂きました。4地区でサポート委員会が設置されていること、市の中心部には「やすんでたんせ コーナー」「きっさこ」が市民のもう一つの居場所として定着しつつあることも報告されました。サポート委員会は現在、委員の連携と意識の統一を図っている段階であると思われます。サポート委員会が、自治会を出発点として進められたことは、地域の温度差はあれ評価されることだと思えます。

居場所づくりふれあいづくりなど、今矢いかけている心の通い合いは、トータルケアの重要な位置を占めると思われます。社会的に弱い立場の子供から高齢者はもちろんのこと働くすべて住民の安心の終着駅は、トータルにケアされる地域にあると思えます。

近い将来、地域包括センターとトータルケアの本事業がつながりを持ち、インフォーマルを含めた、地域でのネットワークづくりや他の専門職との連携ができるようになることを期待します。

今回の現地視察により、真のトータルケアへの始まりを感じとることができました。